

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校 市川市立鶴指小学校（※正式名称を記載）

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒272-0025

千葉県市川市大和田 4-11-1

E-mail work4-tsurusashi@ichikawa-school.ed.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 243 名 女子 202 名 合計 446 名

幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「自分と自然、自分と友だちとのつながりを考える」を活動テーマとして、ESDを「環境的視点からより質の高い生活をすべての人が享受できる社会づくりのための教育」と捉え、ESDの実践を通して「多面的・総合的に考える力」「他社と協力する態度」「つながりを尊重する態度」の育成を目標とした。具体的には、落ち葉の活用を柱に、①落ち葉の実態を知る活動、②落ち葉を使った制作活動、③作品鑑賞を行った。

### 多面的・総合的に考える力… (A)

毎年、晩秋にはたくさん見られる落ち葉。時には厄介に思われ、ほうきで掃かれて捨てられることもあるが、集めて焚火にすれば皆を温め、また本教材のような工作に使用すれば、心を癒すもの・楽しむものにもなり得る。見方・考え方を変えれば、どんなものでも様々な可能性が生まれることに気付くことのできる力を育てる。

### 他者と協力する態度について… (B)

友だちの作品の良い所を素直に見つけて伝えたり、自分の作品に取り入れたりするなど、他人の考えやアイデアを尊重できる態度を育てる。

## つながりを尊重する態度について… (C)

私たちの周囲に存在している木々やその落ち葉が、他の季節ではどのような表情を見せているのかに着目する。私たちは、夏の日差しが強いときには木陰として涼しさを与えられ、紅葉の時期はその美しさを愛でることができる。身近にある為に普段は意識し難いものであるが、一年を通して私たちは自然と共存していることを知り、それらを大切にしようとする態度を育てる。

### ① 落ち葉の実態を知る活動

- (1) 校庭の春や夏の写真と晩秋の様子を見比べて、木々や花の姿がどのように変わっているかを話し合う。(A)
- (2) 落ち葉を集め、その色や形の特徴を友だちに伝えて共有する。
- (3) たくさん落ちている落ち葉は、その後どうなるのかを考えたり調べたりする。(C)

### ② 落ち葉を使った制作活動（ランプづくり）

- (1) 友だちのアイデアと自分のアイデアを融合しながら、落ち葉の並べ方を考える。(B)
- (2) 落ち葉を紙（トレーシングペーパー）の上に並べ、水で薄めたのりをつける。
- (3) 工作用紙で囲いを作り、円柱状に立て、中から LED ライトで照らす。

### ③ 作品鑑賞・まとめ

- (1) 作品を並べて鑑賞し、互いの良さを伝え合うことを通してさらに自分の作品の良さに気付く。(B)
- (2) 落ち葉や枯れてしまった花など、身近にあるものを使ってほかにどのような活かし方があるのかを話し合い、これからの生活に発展させる。(A)



②の写真（落ち葉ならべ）



②の写真（紙に貼り付ける）



②の写真（作品経過）



③の写真（完成作品）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、教科や総合的な学習の時間などの学習活動を進める中で、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うために有効とする学習を積極的に取り入れている。今年度は小学校第2学年でESDの実践活動を行うことを年度当初に計画し、低学年の児童が身に付けるべき能力・態度と、ESDの視点で重視される能力・態度を対応させ、年間を通して計画的に指導を進めてきた。

計画を進める際は、アクティブラーニングの積極的な導入を含めた話し合いをし、本校の児童の実態に合わせた指導計画を立てるように努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコ活動の担当教諭を中心に、毎年の活動の方針を定め、その方針や活動内容などは部会を通して広めている。ESDの授業実践を行う際は、校内の教諭との話し合いを設けることで幅広い認識のもと、実践授業の参観もできるようにしている。実践後は、その成果や課題についてのまとめを、部会を通して報告している。今後も、担当教諭だけの取り組みにならないよう、開かれたESD活動として校内で共有していきたいと考えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本年度は、ユネスコスクールとしての実践報告を積極的に行った。ESDの観点から、今までは主に「総合的な学習の時間」を通して学習活動を行うことが多かったのだが、今回は「図画工作科・生活科」の合科として位置付けた。

この実践を市内の小学校へ報告したことで、ESDの捉え方の幅が広がったといえる。どの教科でもESDの視点に立った学習指導ができるという認識が、今後の活動を更に活発にしていこうと考えられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESD の推進校として授業実践を行い、市内の学校に呼びかけている。その際は目標や指導計画を明記し、参観の視点を明らかにしながら公開している。活動後は、報告書としてまとめ、市内で実践発表会を行っている。実践発表会には、ユネスコスクール加盟校だけではなく市内の様々な小・中・高校の教諭・生徒が参加しているので、ESD の理解が得られる場となっている。その様子は地元テレビで放映され、誰でも視聴が可能である。報告書は冊子として配布している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

大学との連携などを検討中である。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

昨年度、本校職員が韓国招聘プログラムに参加させていただいた関係上、韓国の小学校との交流を望んでいる。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

本年度の活動報告の際には、たくさんの市内の教諭・生徒が集まり、活発な意見交換がなされた。報告者からは、ESDの目標を明らかにした活動報告がなされ、成果も明確だったので、参観者の中には加盟校の申請を出す動きもあった。「市川市ユネスコスクールアシストプロジェクト」によりいただいた助成金で、普段はできない取り組みも可能となり、学習の幅が大きく広がったといえる。それに伴い、児童の関心・意欲の高まりも感じられた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

本年度は、小学校第2学年を対象としたESD授業実践を中心として活動してきたので、平成30年度は、実践していない児童を対象としてESDとしての学習を進めていこうと考えている。  
また、来年度は食育にも取り組む予定であり、高学年を中心にして「和食」にちなんだ単元を構成していく考えでいる。家庭科・総合的な学習と横断的に取り組む予定である。